

令和 3 年度 第 2 回

逗子市環境審議会会議録

令和3年度第2回逗子市環境審議会 会議録

日時：2021年（令和3年）11月15日（月）

午後2時30分～4時30分

場所：逗子市役所5階 第3会議室

議題（1）会長・副会長の互選

（2）脱炭素宣言（案）及びカーボンニュートラルの取組み（案）

（3）その他

出席者	桐ヶ谷市長					
	佐野会長	石井副会長	中津委員	佐藤委員	土谷委員	矢島委員
欠席者	横田委員	小宮委員	鈴木委員	前菌委員		
事務局	環境都市部	石井部長	青柳次長（環境都市課長事務取扱）			
	環境都市課	坂本係長	鬼木主事			

【青柳次長】 それでは、定刻少し回りましたので、ただいまより令和3年度第2回逗子市環境審議会を開会いたします。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、皆様方にはこのたび逗子市環境審議会委員の委嘱につきまして御快諾いただき、ありがとうございます。本日は新しい委員による審議会として1回目となりますので、後ほど会長の互選をお願いするわけですが、それまでの間、僭越ではございますが、事務局であります私、環境都市部次長の青柳が進行を務めさせていただきます。

本日、横田委員、小宮委員、鈴木委員、前菌委員から、欠席の御連絡をいただいております。出席委員が定員10名中6名ということですが、過半数に達しておりますので、逗子市環境審議会規則第2条第2項の規定によりまして、会議の成立を御報告申し上げます。

また、審議会を開催するに先立ちまして、会議の公開及び議事録の作成について、併せて御報告をいたします。本日の会議につきましては、原則公開となっております。傍聴者がいる場合は入室を認めておりますので、御了承ください。会議録につきましては、反訳をいたしますので、会議を録音するという形をとります。こちらについても御了承をお願いいたします。

それでは、まず市長から委嘱状の交付ということでお渡ししたいと思います。大変恐縮ですが、お名前をお呼びしますので、その場でお立ちいただきまして、委嘱状をお受取りください。

(委嘱状交付)

ありがとうございました。ただいま委嘱状を交付させていただきましたが、委員の皆様の任期につきましては、本年7月17日より2年間ということでございます。よろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、桐ヶ谷市長から御挨拶、その場でお願いしたいと思います。市長、お願いいたします。

【桐ヶ谷市長】 どうも皆様こんにちは。また、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、日頃から環境行政に御理解と御協力をいただいておりますこと、重ねて御礼申し上げます。また、今日、委嘱状をお渡しいたしまして、2年間ひとつ御協力を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

逗子市の環境行政も、2015年に第2次逗子市環境基本計画が策定されましたし、また2017年

には逗子市地球温暖化対策実行計画というものを策定して、現在に至っております。しかしながら、目まぐるしい勢いでこの環境関係が変わってきております。御存じのように、昨年の菅首相の出されました2050年にカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現というものが大きな命題となりました。それを機にして、世の中も本当に目まぐるしい変化をしているなどと思います。車は各大手企業も2030年からはエンジン付はもう販売しないと、そういう時代が本当にすぐそこに来るのだなというふうに思います。

逗子市でもこの脱炭素社会に向けて宣言を出そうと今、準備中であります。実際は、今既に変えられるところ、グリーンエネルギーを使った電力に切り換えるということ、逗子市ではもう既に行っております。逗子市の最大の特徴は、例えば事務所、こういう庁舎の電源のみならず、24時間稼働するところの電源をそういう再生可能のものに切り換える。例えばクリーンセンターの焼却炉の関係ですとか、あとは浄水管理センターの電源もそういうものに換えています。今、逗子市では62%ぐらいの電源をそういう電力に換えてきました。とはいえ、まだわずかです。

私は今、所管のほうに言っていますのは、どうやって市民の方々にその考えを訴えて、ただ、庁舎内をどうしたからやっているのだということの考えではなくて、いかにして市民を巻き込んだ運動に展開できるのかと。やはり2050年という、はっきり言って私の年代からすれば、もうそのときは既にというときになろうと思っておりますけれども、ほんと子供、孫の世代に、やはりこの地球はよかったと言ってもらえるものをどう残していくかということは、これは我々の今、生きるものの役割だと考えます。

そうした意味で、この担当所管であります環境都市課の考える環境政策のみならず、例えば図書館で市民向けに脱炭素の様々な企画を打つ、社会教育のほうではそういうセミナーを熱心にかけて、一般市民の方々に啓蒙していただくとか、そういったこともこの運動の中に考えていくべき課題というふうに捉えております。大変大きな問題ではありますけれども、この小さな逗子市の中では、市民こそって様々その運動に取り組みを始めたんだというような、そういうまちを目指したいと思っておりますので、ぜひ委員の皆様には、そういった市民目線また大所高所の目線で御議論いただきたいと考えているところであります。

本当にお願ひばかりで申し訳ございませんけれども、本当にいいまちをつくっていくという意味では、こういう脱炭素の問題も含めながら、やはり市民の皆さん一体となって動けるまち、

これが一番幸せなまちになっていくのではないかと考えております。よろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。

【青柳次長】 ありがとうございます。市長はこの後、所用がございますので、ここで退席とさせていただきます。

【桐ヶ谷市長】 どうも皆さん、よろしくお願いたします。

(市長退席)

【青柳次長】 それでは、着座のまま進行させていただきます。

本日、新しい委員の方もいらっしゃるので、審議の時間の都合もございますけれども、それぞれ自己紹介の形で、委員名簿順に御挨拶をお願いできればと思います。よろしくお願いたします。そうしましたら、佐野委員からお願いたします。

【佐野委員】 皆さん、こんにちは。関東学院大学人間共生学部共生デザイン学科の佐野と申します。専門は主にリサイクルを研究しています。継続ですけれども、どうぞよろしくお願いたします。

【中津委員】 こんにちは。関東学院大学の中津といいます。私、建築環境学部というところで、もともと工学部の建築学科だったのですが、名前が変わって学部になりました。そこで教えていますが、専門はランドスケープデザインといまして、造園とか都市計画とか緑地の計画、具体的には公園の設計とか子供の遊び場とか園庭の設計、これを学生と一緒にやったりしています。緑を使って都市をどう変えていくか、そういうことをやっておりますので、よろしくお願いたします。

【石井委員】 逗子の山の根に住んでおります石井でございます。私は環境のフットプリント、エコロジカルフットプリントというのが80年ぐらいに騒がれたと思いますが、そのときに要するに人類の消費する地球環境、これが地球自体の自浄作用を超えてきた。その辺りから個人的に環境への興味を持っておりまして、私は元銀行員でございますが、仲間もかなり環境関係のことに携わっている人間が当時多くて、引き続き興味を持っております。私は今は住民自治協議会の運営に携わっておりますが、個人的には今日テーマにあるゼロカーボンのところとか、SDGsとかですね、その辺、ゴールが先のようなのですが、もう既にいろんなことが世界中の国が動き始めている。その辺を踏まえて、いろんな準備をしないといけないのかなということで、この審議会、楽しみにしております。

【佐藤委員】 池子から参りました佐藤和枝と申します。主婦をしております。自分では環境について、自分なりに考えて日々実践しているつもりですが、まだ個人の力では全然及ばないようなところもあって、この機会にいろいろ勉強させていただいております。ありがとうございます。

【土谷委員】 こんにちは。スーパーマーケットスズキヤの経理部におります土谷と申します。今は経理ですけれども、お店の経歴のほうが高く、スズキヤというのは逗子の駅前にございますけれども、県内に11店舗ほど展開しております、逗子が発祥ですので、こちらの逗子市のまちづくりとか、例えば田越川の清掃などには協力させていただいて、いろんな面から一緒になって市民の皆さんと行動していこうということでやっておりますので、今回よろしく願いいたします。

【矢島委員】 皆さん、こんにちは。矢島明と申します。よろしく願いいたします。仕事はですね、東逗子、沼間のほうですね、駅前のビルでテナントの管理、不動産管理を仕事にしております。その1階のテナントでこちらスズキヤさんが一番大きく入っていただいて、いつもお世話さまです。出向のものは、逗子市商工会というところがありまして、そこの副会長を仰せつかっております、そちらのほうからこちらのほうに出なさいということで参加させていただいております。最近こういう環境問題というのは大変取り沙汰されていますので、興味はあるのですけれども、よく分からないというところで、また皆さんの足を引っ張らないように頑張っていきますので、ひとつよろしく願いいたします。

【青柳次長】 ありがとうございます。引き続き事務局の職員の紹介をさせていただきます。まず、環境都市部長の石井でございます。

【石井部長】 石井でございます。どうぞよろしく願いいたします。

【青柳次長】 環境都市課係長の坂本でございます。

【坂本係長】 坂本と申します。よろしく願いいたします。

【青柳次長】 同じく、担当の鬼木でございます。

【鬼木主事】 鬼木と申します。よろしく願いいたします。

【青柳次長】 そして私、環境都市部次長の青柳と申します。本日はよろしく願いいたします。

次に、議題に入ります前に、改めて皆様にお願いがございます。事務局の会議録作成、反訳

する際に、委員の皆様の声が重なるケースがございます。反訳するのに支障がございますので、発言に当たりましては挙手いただいて、会長の指名を受けた方が御発言いただくという形をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

また、本日の会議時間ですけれども、議論が白熱した場合でも、最大4時半までというふうを考えておりますので、議事運営に御協力をお願いいたします。

次に、資料の確認をいたします。それでは、事務局よりお願いいたします。

【鬼木主事】 資料につきまして、事前に送付させていただいているんですけれども、別添2の逗子市の取組について修正いたしましたので、改めて机上に配付させていただいております。

まず、本日の会議次第、2枚目に委員名簿、議題の資料としまして、別添1、脱炭素宣言案としまして「脱炭素社会実現への挑戦」、別添2、逗子市の取組、別添3に脱炭素宣言案及びカーボンニュートラルの取組案に係る意見書、最後に参考に環境省が策定いたしました地域脱炭素ロードマップの概要版となります。

配付資料は以上になりますが、不足がございましたら事務局のほうにお願いいたします。

【青柳次長】 よろしいですか。それでは進めさせていただきます。

それでは、議題1、会長・副会長の互選に移りたいと思います。当審議会の会長・副会長の選出でございますが、環境基本条例第19条の規定によりまして、会長・副会長の選出は委員の互選により選出することとされております。

まず、会長につきまして、委員の皆様、いかがでしょうか。

【中津委員】 今までの経験からいって、長いことやっていらっしゃるという意味を含めて、佐野先生が適任ではないかなと考えておりますが、皆さんいかがでしょうか。

(「異議なし」の声多数)

【青柳次長】 異議なしの声をいただきました。ありがとうございます。御異議がないようでございますので、佐野委員が会長ということで選出とさせていただきます。

それでは、佐野委員、会長席へお移りいただけますでしょうか。

(佐野委員、会長席に着席)

それでは、改めまして会長から一言いただければと思います。お願いいたします。

【佐野会長】 皆さん、どうも御推薦いただきありがとうございます。昨年に続き、何とか微力ですけど努力したいなと思っています。

環境問題なのですからけれども、我が大学出身の小泉進次郎元環境大臣もそうなんですけれども、環境に関していろんな考え方がありまして、なかなか難しいところがあります。ですので、この会議でも皆さんの意見をいろいろ聞いて、よりよい方法、方策をまとめ上げられればなと思っていますので、どうぞ御指導のほどよろしく申し上げます。以上です。

【青柳次長】 会長が決まりましたので、環境審議会規則第2条第1項の規定によりまして、ここからは佐野会長が議長として議事を進めていただきたいと思います。改めて会長、よろしくお願ひいたします。

【佐野会長】 それでは、早速なのですからけれども、副会長を決めなければいけないのですけれども、どういたしたらいいかということで、事務局、何かありましたらお願いします。

【鬼木主事】 これまで会長による推薦を受けて皆様で承認をいただいて選出されておりますので、そういった形がよろしいかと思ひます。

【佐野会長】 通例によりますと、私から御推薦をして承認いただくということになりますけれども、皆さん、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声多数)

では、昨年度もそうなのですからけれども、環境基本計画には市民、事業者、市で一体となって進めていくという考え方がありますので、そこに書いてある、ぜひ市民の委員の方から選出したいと思ひておりますけれども、どなたか立候補あるいは御推薦いただければ幸いだと思ひますけれども、いかがでしょうか。立候補、御推薦ありませんでしょうか。

(発言者 なし)

なければ、私としましては、長年逗子に住まわられていて、市民団体に属しておりますし、活動、SDGsも興味がある石井委員が適任かと思ひますけれども、石井委員にお願いするということで皆様いかがでしょうか。

(「異議なし」の声多数)

ありがとうございます。御異議がないようですので、石井委員が副会長として選任されました。よろしくお願ひいたしたいと思ひます。

それでは、石井委員から一言何か御挨拶いただけると。

【石井委員】 環境審議会は前回のZoomの会議のときに初めてでございまして、まだ全体が見えてなくて、どこまで会長を支えられるかよく分からないんですけれども、一生懸命やりま

すので、よろしく願いいたします。

【佐野会長】 ありがとうございます。よろしく願いいたします。

それでは、議題2の脱炭素宣言（案）ですけれども、それとカーボンニュートラルの取組（案）について、事務局より御説明をお願いします。

【坂本係長】 御説明いたします。今回の審議会では、皆様から御意見をお伺いしまして、脱炭素宣言、それと今後の取組の参考とさせていただきたいと考えております。

まずは、逗子市における脱炭素宣言の案というところで、御説明差し上げる前になんですけれども、ちょっと自治体の取組のイメージを持っていただくために、環境省で作成しております動画を御覧いただきたいと思います。5分程度です。

（ 動画視聴 ）

【ナレーション】 ゼロカーボンシティ、2050年、二酸化炭素排出実質ゼロを表明する自治体が増えています。ゼロカーボンシティの表明は、2021年2月の段階で235自治体に拡大、それら自治体の人口を合わせると9,500万人を超え、日本の総人口の4分の3を占めています。トップが語るカーボンニュートラルに向けたメッセージ、そこには脱炭素社会への移行を目指すことで生まれる意外なメリット、野心的な自治体の戦略がありました。

ひろがるカーボンニュートラル～トップが語る脱炭素～

【遠藤久慈市長】 久慈市は地産の電源確保及び地域新電力を通じた再生可能エネルギーの供給により、ゼロカーボンシティを目指しています。こうしたエネルギーの地産地消は、脱炭素化を進めるだけでなく、市外に流出していた52億円ものエネルギー購入費用を市内に循環させ、地域経済の活性化にもつながります。

【村椿魚津市長】 魚津市の脱炭素化に向けた取組が、民間企業や市民の行動につながり、行政だけでなく、企業や市民が互いに連携・協力しながら、それぞれの立場で主体的に取り組んでいただくことを期待しています。

【山野金沢市長】 家庭の再エネ導入支援で、太陽光発電設備の設置件数は、2019年度末で4,700件、2013年度と比べておおむね倍増しました。また、2018年に導入した「指定ごみ袋収集制度」いわゆる「家庭ごみの有料化」によって、燃やすごみは20%減少し、資源化されるごみは7%増えました。

【阿部長野県知事】 気候変動対策は、我慢を強いるだけの苦しいものではなく、歩いて楽し

めるコンパクトなまちづくり、快適な住環境による暮らしの質の向上など、明るく楽しい未来をつくっていくものでもあります。

【藤巻軽井沢町長】 軽井沢町は省エネや再エネ普及を加速させるスマートコミュニティ、環境配慮型都市に移行することで、2050年、CO₂排出量実質ゼロを目指しています。そうした自然との共生を前提にしたまちづくりの重要性は、2019年、日本で初めて当地で開催されたG20環境・エネルギー大臣会合でも、世界中が再確認することとなりました。

【門川京都市長】 子供たちが学校、保育園、さらに地域で環境を学びます「エコチャレンジ事業」、さらに大学のまち、ベンチャー企業のまち、様々なイノベーションが京都でどんどんと起こってきています。私たちは未来に対する責任、京都の役割、そして覚悟を決めて取り組む必要があります。

【小紫生駒市長】 住宅都市である生駒市の最大の財産、それは「市民力」です。市民や民間団体、事業者などの力を集結し、いくつもの地域課題を同時に解決できる手法の一つが「ゼロカーボンシティ宣言」だと考えています。地球環境のピンチをまちづくりのチャンスとして捉えているのです。

【松本北栄町長】 持続可能なまちづくりに向け、町民・事業者・行政が一体となって脱炭素化を進めます。脱炭素を単に環境問題としてだけ捉えるのではなく、防災・健康・経済・産業など、町の課題解決にもつなげていきます。

【中村愛媛県知事】 自転車で通勤・通学する「自転車ツーキニスト」の拡大や、温泉や銭湯の利用を呼びかける「温泉でほっ！とシェアキャンペーン」など、愛媛らしいクールチョイスの取組を実践しています。愛媛県では、県民の暮らしと脱炭素社会が両立する「環境先進県えひめ」の実現を目指し、オール愛媛であらゆる取組を進めていきます。

【大西熊本市長】 ゼロカーボンシティへの取組は、SDGsが掲げる環境と経済の好循環を実現し、地域住民の生活の質を向上させます。熊本市は都市圏の住民・事業者・行政が自治体の枠を超えて連携し、温室効果ガスの排出削減に取り組みながら、持続可能で災害にも強いまちづくりを進めてまいります。

【ナレーション】 都市から農山漁村まで、2050年カーボンニュートラルを目指す手法と期待される効果は自治体の数だけあります。脱炭素化の取組が持続可能な発展につながる。さあ、あなたの地域でも未来に向けた新たな挑戦を始めようではありませんか。

(動画視聴 終了)

【坂本係長】 ありがとうございます。

それでは、私から続きまして御説明させていただきます。この別添1の脱炭素社会実現への挑戦というA4・1枚の宣言文案を御用意しておりますので、御覧ください。

見ていただいた動画にもありますとおり、世界や日本全国において脱炭素社会の実現に向けての取組が広がっているという状況です。逗子市においても、市民・事業者、そして行政が協力して取り組まなければならないというふうに考えております。来年度以降、地球温暖化対策の実行計画などを見直す中で、脱炭素社会の実現に向けた具体的取組を検討していくというところですが、まずはこの宣言をもって市の姿勢を示すというところで考えております。

この宣言文のまず1段落目と3段落目、1段落目は「近年」と書いてある、2段落目が「そして地球温暖化は」と、3段落目に「地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量は」というセンテンスがありますが、この1段落目から3段落目まで、この近年の極端な気象現象、地球温暖化の進行との関係を言及しているというところで、さらに地球温暖化の進行は私たちの日々の生活と関係があるということで、すぐに行動を始めなければいけないという危機感を訴える内容としております。

その次の4段落目と5段落目、「家庭から排出される」というところと「今後は」というところなんです。逗子市の状況で言いますと、用途別の面積で第1種低層住宅ですとか、いろいろ区分がありまして、住居系が約93%を占めている住宅都市という特性があります。住宅がもうほとんどの市域に広がっている逗子市において、例えばメガソーラーですとか、そういったものの設置がほぼ難しいだろうということで、そこの中で十分な再生可能エネルギーを創出するというのは非常に難しいということで、脱炭素の取組を考えていくと、衣食住を中心とするライフスタイルをもう変えていかなければならない。そういったところに重きを置いて取り組む必要があるということ、4段落目、5段落目で言及しております。

そして、最後の6段落目、7段落目に、「この規模の小さな自治体だけでは」というところなんですけれども、脱炭素社会の実現のためには、なかなか逗子市だけでは、難しいということではあるのですけれども、まずは逗子市の中でどうやっていくかというところで、地域の中の協力体制、それと地域を超えた横のつながり、こういったものがまず欠かせないということで、それと脱炭素、カーボンニュートラルさえ達成できればいいというわけではなくて、

先ほど石井委員もおっしゃったSDGsの考え方で、貧困をなくそうですとか、平和と公正を全ての人にといった、個別の目標との関連性を踏まえて行動しなければなりません。

そういった、市の思いとして未来を担う子供たちにカーボンニュートラルの実現を約束するという形で締めた宣言文となっております。

続きまして、この宣言文につけて皆様にお示しする資料として、別添2の逗子市の取組ですね、左上がホチキスで止めてある資料になります。こちらを御覧ください。

今、逗子市の中で、私たち事務局が想定している令和4年度、来年度以降の主な取組、事業を記載しております。宣言文のこの附帯の資料となるものなのですが、3ページの5つの項目を大項目として考えております。

1つ目が、2050年度脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガス削減の取組推進ということで、環境都市課が来年度からカーボンニュートラル推進事業として進めていく所管になります。先ほど市長がお話ししました市の所有の施設において、再生可能エネルギー100%の電気を導入していく取組ですとか、あとは電気自動車の普及促進ですとか、そういった事業を展開していくという考えでおります。

2つ目の環境負荷の少ない交通手段への切换え促進。こちら環境都市課において公共交通拡充支援事業ですとか、歩行者と自転車のまち推進事業、そういった事業が脱炭素に資する取組として考えているというところです。

それと3つ目、自然環境の保全及び生態系の維持・保全に努め、森林管理の是正化を図る。あくまでも例示という形で、これだけではもちろんないのですけれども、例示として挙げているものが緑地維持管理事業ですとか緑地推進事業、そういったものが考えられるかなというところです。

それと4つ目が、ごみを燃やさない、埋め立てない、ゼロ・ウェイスト社会の構築を目指すというところで、こちら皆さんが日々出すごみを燃やすと温室効果ガスが当然発生するわけですので、いま一度このゼロ・ウェイスト社会を目指していこうということで、事業名で言うと、資源再利用推進事業ですとか、生ごみ減量化・資源化事業、こういったものを挙げております。

5つ目として、このゼロカーボンシティ実現に向けた気候変動対策基盤の整備、一番最後のページになりますが、こちらまずゼロカーボンシティを目指していくということではある

のですけれども、近年、日本国内でも非常に気候変動による異常気象というか、度重なる豪雨ですとか台風も大型化してきているという状況もありまして、そういったときに気候の変動にうまく適応していかなければいけない。そういった部分でカーボンニュートラルと併せて取り組んでいかなければならないものとして、防災対策事業ですとか、再掲になりましたカーボンニュートラル推進事業、こういったものを例示として挙げております。

ちょっと駆け足で説明させていただいたのですが、それらに関しまして、ちょっとまだまだ未成熟なものでありますし、例示という形になっておりますので、今後この原案については事業の関係部局との調整を行いまして、内容を整えてまいりたいと考えております。

最後の参考という形で、環境省の地域脱炭素ロードマップの概要というページ数の多いものになりますけれども、こういったことを地域の中で行っていけば、脱炭素の推進を図れるかを国がしめしたもので、これは参考に添付させておりますので、この中身の詳しい説明は省略させていただきます。

宣言文ですと、逗子市の取組につきまして、皆様のお知恵をお借りしながら、検討してまいりたいと考えておりますので、御意見、御感想をお気兼ねなく御発言いただければと思います。以上で説明を終わります。

【佐野会長】 ありがとうございます。ただいま事務局から御説明がありました脱炭素宣言（案）及びカーボンニュートラルの取組（案）について、委員の皆様より御質問、御意見ございましたらよろしくお願ひします。

【石井委員】 逗子市は従来、環境基本条例があって一生懸命取り組んでいるなという認識はあるのですが、今回、菅総理大臣がゼロカーボンにするという中での整合性はどうかという素朴な疑問がずっとありました。その中で、今やってきた逗子市の施策と、多分国が出しているロードマップ、これをベースにするのか分からないのですが、その辺のすり合わせ自体もする必要があるなというふうな感じを持っております。例えば逗子市の中では、エネルギー自体の出と入りのバランスをとったら、どこの自治体もね、ここにも書いてありますが、ほとんど外から引っ張ってくる。やや狭い逗子市の中で、エネルギーをつくれるのかといたら、これは限界がある。そうすると、我々住民の、一般住民が多く住んでいるところで、どういう形で寄与していくかということを考えなければいけないと思うのですが、じゃあ従来積み上げてきた4つの案とはね、それは皆さん、ごみの減量化にしても一生懸命やっていると思うんです

が、そのすり合わせ、イメージのすり合わせが大事なんです。何が抜けているのかというように、時間軸のすり合わせと併せて積み上げていく必要が、ベースがせつかくあるのだから、あとは足りないところは何なのかなということでやっていかないといけないのかなという、大まかなイメージは持っております。

【佐野会長】 今、副会長がおっしゃったのは、国の指針と逗子市の指針のすり合わせと、それをやって、足りないところを明確にしていってほしい。

【石井委員】 何か落ちているところとかね、そういう比較的いろいろなところで進んでいるとは思っているのですけれども、これは飛んでいるという観点で、何が具体的に進んでいて、何が遅れていて、何ができるのかという、まずプロファイリングみたいなのをしておかないといけない。例えば、私は個人的な趣味で調べていくと、浜松市の環境政策、これ、かなり進んでいるのですよね。いろんな項目を設けて対応をとっているし。それで、例えばセンター機能、これは物理的に建物を造るのじゃなくて、ゼロカーボンについてのもろもろの情報を集める。それをまた還元するというようなことをやっているようなのです。この辺は、例えば市長も含めて、浜松市へ見に行ってもいいと思います。学ぶべき先進地域はあるのかな。名前を挙げればいいですけど。

【佐野会長】 事務局のほうで何か、事例を挙げてというのも無理だと思いますけれども、何か。

【鬼木主事】 石井委員のおっしゃられた国のロードマップ、逗子でもどう取り組んでいくかというところのすり合わせというのも、大切なところではあると思うんですけれども、逗子市の現状をまず把握していくというところで、来年度になるんですけれども、逗子市の温室効果ガス、逗子市内の、地域内の温室効果ガスの排出量だったりとか、それをどう削減していくのかというような基本情報というところの調査を行いたいと考えておまして、現時点で環境省のほうでも大体の数字というのは公表はされてはいるんですけれども、そこからじゃあ何が逗子の温室効果ガス排出の大きな原因となっているのかとか、そういったところというのは、もっと細かく調査していかないといけない部分になってくると思いますので、それについては来年度に調査をした上で、その調査結果を踏まえて、逗子市での取組というのを具体的な施策での検討していきたいとは考えております。

【佐野会長】 現状をつかんでから、足りない部分、全然分からないところですからね。

【石井委員】 それは、いつごろまでに調査をするんですか。

【鬼木担当】 一応、令和4年度に調査を実施する予定です。

【石井委員】 それだと遅くないですか。すなわち、今まで環境条例の中で、例えばCO₂部会とかいろいろありますよね。環境会議で。そこで今まで積み上げたものって、ないんですか。

【鬼木主事】 積み上げたものとしてのデータの部分というところですか。

【石井委員】 データ的部分といっても、そのデータといっても限度があると私は直感で感じるんです。じゃあ車の排気するCO₂はどのくらいなのか。そんなの正確につかまえられるわけがなくて、来年令和4年までにそれをつかまえるとおっしゃっているけど、あてはあるんですか。

【鬼木主事】 それも含めて、市の職員だけでは、そこは難しい部分になっておりますので、例えばコンサルさんをお願いをしたりとか、そういったところの方向で調査は進めたいとは考えております。

【石井委員】 すみません、私ばかりしゃべって。

【石井部長】 石井委員のおっしゃるように、逗子市もこれまで環境基本条例ですとか地球温暖化対策実行計画の中で、具体的な数値目標は持っているところではあります。ただ、それも国の宣言にありますとおり、2050年にカーボンニュートラルを達成しよう。あと、2030年には温室効果ガスを2013年比で46%削減しようというところだと、やっぱりその石井委員がおっしゃったすり合わせというところで言うと、全く逗子市の目標が達していないというところになりますので、そこはこれからの数年が2030年までに考えると、とても重要というところで、まず宣言をするということは、逗子市が先頭に立って行動するというをお示しして、それと脱炭素の取組をどうしていくかというのは、国がそれぞれの地域ごとでそういった計画の策定ですとか、ビジョンづくり、シナリオづくりというのは、国の補助金を活用しながら、市としても全く負担がないわけではないんですけれども、その調査業務というのは来年度実施するというところで、補助金を申請してということを考えていくと、遅いかというところは確かにそうかもしれない。ただ、今できることは当然やりながら、調査をしてしっかり目標設定ですとか、現状把握はした上で、データをもって皆さんにお示ししていきたいと、そういうふうを考えているところです。

【矢島委員】 本当に稚拙な質問というか、この脱炭素社会実現への挑戦の真ん中辺に家庭か

ら排出される温室効果ガスは全体のおよそ6割と書いてあるんですけど、それが我々としてはそんなに出してるといふ実感がないんですよ。一般の市民の人たちって、そうだと思うんですよ。えっ、そんな家庭から6割も温室効果ガスが出ているのという。まずそこを、こういうことが原因なんですよというのを、みんな、逗子市の場合は企業とかないので、まず市民の人にまず知らしめるというか、そういう方策、もっと言うと、何で6割なのという、その辺が全然分からないんですよ。実際、自分の家庭でそういうのを6割も出しているという実感はありますか。ないですよ。

【佐藤委員】 ありません。

【矢島委員】 ですよ。それをまず、本当に6割出ているのだったら、それを何が原因なのというのを、まず明確にお知らせして、こういうことを減らせばこうなりますよみたいな、そういうまず、さっき言った原因というのですか、それをまず皆様にお知らせしたほうがいいんじゃないのかなという気がするのです。確かにそれは並行ですけれども、目標とそれぞれ並行してやっていかなければいけないと思うんですけど、やっぱりギャップがあると思うんですよ。我々一般の人たちと、やはりそういう意識の高い人たち、あるいは政治とかそういう国の運営とか、地球規模で考えている人たちから見ると、やはりそういう差があると思うので、まずそのギャップをいかに埋めていくかということだと思っております。その6割って何かって聞きたいのですが。

【石井部長】 おっしゃるとおりで、宣言文も、ちょっと私もよくよく調べてみると、この宣言文にある「家庭から排出される」という言葉自体、ちょっと正確じゃないだろうというふうに、今考えているところは、これも環境省の資料をいろいろ見てみると、家庭からというよりは、ライフスタイル、家計ですね、家計ベースで見ると温室効果ガスは全体の6割ということなので、私たちが生活する上で移動したりいろいろ物を買ったりということ、それをかなり広い範囲で家計と捉えているというところで、一方で、じゃあ逗子市内の温室効果ガスというのが、どれだけ割合として出ているかという、地球温暖化対策実行計画で調査した、以前調査した中では、36%、37%ぐらいが「家庭部門」という言い方をしています。今、私がこれだけ家庭とか家計とかライフスタイルとかということを使うだけでも、これだけ割合が異なる。一方で、ほかの市ですと大きな工場が、大きな産業があつたりする。それだけで、もう6割ぐらい、そこで占められているというふうにも言われたりもします。そういう数字も出されてい

ますので、おっしゃるとおり、ギャップを埋める、正しい情報はどれなのか、正しい表現をしていかないといけないというふうには考えておりますので、この宣言文についても、ちょっとここは恐らく見直すべきものかというふうには考えております。

【石井委員】 政府のこのロードマップも非常に読みにくいですよ。言葉自体が分かりにくいし。全然こなれてない。その家庭部門の60%というのもね、多分みんなが使っている、一般住民が使っている電力を合わせると、無駄なところがあるよねとかね、あるいは食品をかなりいっぱい、必要以上に作ったり買ったりして、その部分が全体で見るとエネルギーを消費しているよとかね、そういうまさにおっしゃったライフスタイルの問題だと思うんですね。ただ、矢島委員がさっきおっしゃったように、我々の感覚から言うと、えっ、60%なのという感覚であることは間違いなくて、それをまずやっとな、まず、正しい認識として、そうなのかということ、まず共有する。そういうような形にもっていけないとまずいだらうと。そうしないと実効性は全く上がらないだらう。そんな気がしますね。

【矢島委員】 私がちょっと引っかかっている6割、例えばおむつなのですけども、例えばおむつを作って、トラックで小売店さんに運んでというのも入っちゃっているんじゃないかな、これ、多分。それと家庭からって、家から出たものというので、簡単に考えると、おむつをただ焼却しちゃったらこれだけ出るのだなという意識が入ってないなと。

【石井委員】 認識のギャップが、かなりあるのじゃないかなと。

【佐野会長】 工夫が必要かなと思いますね。事務局にもちょっと審議事項として扱えればなと。

【中津委員】 今、いろいろ各論の話を、相当細かいところいっぱいあるんですが、国の施策と逗子市の考え方をどう調整するかということ、それを市民の方々に分かっていただくことが非常に重要なことだというのは、ここの今の議論だと思うんですが。それはちょっと調べればすぐ分かることなので、さておき、今まで逗子市のこの会議で私も十数年間、参加させていただいているんですが、すごくいい議論がいっぱいあったんですけど、それ、もう一度ちょっと何か今の委員の中で、何かできれば共有できるチャンネルがあればいいなというのは、ちょっと思っています。結果的にそれがどれだけ生かされているかというのは、ちょっと残念だなという気がしています。

特に、こういう話をすると、すぐエネルギーの話になるわけですが、やはり人口5万人の都市と人口100万人の都市じゃ、エネルギーのインフラにかかる効率、絶対的な排出量、二酸化

炭素の排出量のバランスが全然違うわけですから、当然決められたお金の中でやっていくやり方というのは、それぞれ政策的に違ってきてしかるべきだと思うんですけど、その中でどういうふうな逗子らしさというのを出していくかというのは、今までずっと議論してきたつもりだったんですけど、具体的にはいろんな世代、多世代の交流という世代を超えた交流の話と地域の連携の話と、この2つなのですけど、何かその辺りがもっと逗子らしさが出てくるような文面だったらいいのになと思って、私、読ませてもらいました。

特に逗子の中で、5つの小学校がそれぞれ地域と相当強く、密接に地域の特色をつくり出していると思っています。その議論、以前はずっとしていたはずですけど、そういうところで地域ごとの多世代交流、その中での環境教育というのは、すごくいい話だったと思うんですけど、何かそういうものとの関係みたいなのが行政の内部の連携、部署間連携と同じ話でもあるんですけど、何かそういうものをもうちょっと生かしながら、さっきの動画の中でもありましたけど、どこの市だったか忘れちゃったけど、楽しめるということが出てきたということで、すごく重要なことで、逗子らしさのそういう楽しくそういう活動ができるということ、プロモートがこの中から出てくればいいなと思っています。

特にSDGsというのは、あれもマーケティング的には何かパッケージにして広めている部分があって、2030年とかね。私たちは、それよりはるか以前から考えてきたことなので、何かああいっような枠組みに左右されずに、逗子らしさというのをもっとももっとつくっていくことを積み上げることを、もうちょっと意識してもらえるといいかなと思っています。ちょっと雑駁ですけども、単なる感想ですけども、イメージです。具体的な話じゃない。以上です。

【石井委員】 この脱炭素社会実現への挑戦というの、これで最終じゃないんでしょ。

【青柳次長】 ではないです、案ということで、まだまだたたき台のところ。

【石井委員】 いつぐらいまでに公式な文書にするんですか。

【青柳次長】 まず、逗子市の宣言自体をまだしてないというところで、他市から遅れている状況というところがあります。これはなぜかという、実は市長のほうが、宣言っていつでもできるんです。宣言って、「やります」だけでも宣言ができて、それをやってもどうなのだろうと。先ほど中津委員からもあったように、5万の都市で宣言だけして、結局何をやるか分からないけど宣言を先にしましたというのは、できればしたくないというのがありまして、そういうのもありまして、いろいろ、どんなことができるかというところから調べていって、ちょ

っと後発になってしまうんですが、宣言をするというところなので、ただ、いつまでたっても宣言できないというもおかしな話なので、今年度中にはちゃんとまた実施するというところで考えておまして、一応目標としては年明けぐらいには形にはしたいなと思っております。ちょっと場所もいろいろ考えないといけないので、例えば市長が記者会見で発表するとか、議会の前とかですね、その辺でしゃべる機会があるので、そこで発表するとかというところに多分合わせていくことになると思いますので、いずれにしても年度内には形にしたいというふうには思っております。

【石井委員】 年度内というと、あまり時間がないですよ。それで、先ほど会長からもお話ありましたけれども、あるいは中津委員もお話ありましたけれども、さっきの各自治体の市長ないし首長の話を聞いていると、逗子市もかなりやっているじゃないかという印象がありました。その辺のやってきたこと、さっきの繰り返しになりますけれども、やってきたことと今、国の指針みたいなものと、そのすり合わせみたいのをきちっと精査した上で、逗子市のやってきたことはこうですというような形でまとめないと、通り一遍の宣言だけしてもしょうがないというのが私の意見です。いずれにしても、あまり時間ないですよ。

【佐野会長】 今、副会長がおっしゃった点、やってきたことは、もったいないので、ちゃんと整理して、あとは宣言をするには、新たにやることも少し入っていたほうが、宣言に市長も踏み出せるのかな。さっき、ビデオを見ると、何か銭湯を使いましょうとか、割とできるところから、多分何かやっていると思うんですね。スタンプとか、何かそういうできそうなところは、何かちょっと実行してもいいのかな。簡単なことからやって、時間もないです。

【鬼木主事】 一応今回皆様からも意見だったり、本当にアイデアだったりとか、感想とかでも構わないのですけれども、そういったところをお伺いしたいと思っております、そういったことを踏まえて、こちらでも内容をきちんと整えて宣言をしたいと思っておりますので、先ほどおっしゃったように今までやってきたことというのは、かなりたくさんありまして、環境都市課のほうでも市民団体の方と協働でイベントだったりとか普及啓発というところも進めておりましたので、今やっていること、今までやってきたことというのと、あとはこれから脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいくということを両方お示しできるような形がというような御意見もありましたので、そういったものを参考にして、こちら事務局のほうでも改めて考えたいと思います。

【佐野会長】 石井副会長のほうからいいアドバイスをいただいた。浜松市の、私もよく見えないので、一回私も見てみて、何か参考にできるところはすると、もしかしたらよくなるのかなと考えておるので、ちょっと、ホームページを見れば。実は私、出身地なのですが、見てこなかった。

【中津委員】 できれば人口の近いところを参考にして。エネルギー政策はね。

【佐野会長】 政令指定都市ですからね。宣言とかまとめ方の参考になるかもしれません。

【佐藤委員】 私も政府のほうのロードマップは、ちょっとあまりに量が多いというか、大きすぎちゃって、具体的な、身近なものではなくて、やはりこの逗子市の取組の案に具体的なことが書いてありまして、そうすると分かりやすいなと思いました。特にこの5番目のゼロカーボンシティの実現に向けた気候変動型対策基盤ということで、防災対策事業で市内の小学校における蓄電池導入の設備強化、こういうようなことも、ああ、なるほどなというふうに思いましたし、その前にあります子供たちに対する環境教育の実施とも併せて、やはり皆さん、身近に考えて、一石二鳥じゃないかなというふうに思いました。個人ではこういうことはできませんので、市としてやっていただければ本当にいいなと思いました。

【佐野会長】 長すぎますものね、国のほうは。

【矢島委員】 あと、あれですね、これだと今おっしゃったのは市とかそういう逗子市の中でも大きい団体というか、企業というか、そういう人たちの取組ですけど、やはりさっき言ったように、突き詰めていくと個人個人がどうやってそれに参加するかということが逗子市の成果を上げるための方策だと思うのですよ。ただ、やはりそうなると、蓄電池にしても、太陽電池で発電したものを御家庭の蓄電池に蓄えて、それを使うとか、そういうようなことをどんどん推進させるような補助金だとか、提案だとか、そういうのをどんどんしていかないと、やはりやっているという意識も芽生えないでしょうし、もっと言うと、そういうふうにしておけば、防災のときにも役立つので、だから一石二鳥じゃないですけども、そういうところでどんどん、自分でお金出してやるというのは、なかなか大変なので、何割か出していただければ、それ、できますよみたいな、そういう国のほうからお金をとってきたり、そういうこともどんどんしていったらいいのかなという。逗子の場合、特に家庭家庭に照準じゃないのですが、そういう事柄を提案していったほうが分かりやすいのかなという気はしました。

あと、ここにもあるのですが、温室効果ガス、森林管理の適正化ということで、やはり私、

返子でも東のほう、沼間のほうなので、あちらはやはり山が多いんですよ。50年、木がたつと、なかなか二酸化炭素を吸わなくなるみたいなことも今言っているので、やはりある程度のサイクルで伐採しながら、植樹をして若い木を育てる。そういうことをしていかないと、二酸化炭素、酸素、その循環もうまくいかないということらしいので。やはり桐ヶ谷市長も大変山をいっぱい持っているらしいので、実は林業をやりたいのですよねという話は昔からしているのですよ。それは一般のリタイヤした人たちが、半分お小遣い稼ぎみたいな感じで林業に参加してもらって、そういう整備だとか、そういうような仕組みづくりも必要なのかなという今、気はして、できればそういう団体を立ち上げたいなという話は常々しているのですね。だから、やはり見てみると、つるが絡まっちゃったりなんかして、荒れ放題なので、そういうところもそういう人たちが入って、わずかな何か例えばシイタケの栽培してもいいですし、そこでお金が入ったら、みんなでちょっと分け合ったり分配して、孫に何か買ってあげるとか、お小遣いあげられるような、そういう収入も入るような形にすれば、継続的にできるのかなという、そういうことも少しは考えて、いつか実行したいなと、実現したいなと、そんなこともちょっと考えたりなんかしているのですけどね。

【石井委員】 緑化維持のところはね、実際問題、今、市の持っている山もかなりの広さがあると思うのですが、緑政課が中心になって管理してくれていると思うんですが、その管理って実際問題かなり大変だろうと思うんですね。最近ではブナ枯れというのかな。それを適切な管理伐採するというのは、なかなかできてないと思うし、今、ぱっと駅を降りて、周り、山、緑が見えますけど、その山はちゃんと管理されているかという、必ずしもそうではなくて、そのところはもっと市民と協働してやっていかないと、どんどんどんどん傷んでいくと。そこは実際やるのは、かなり大変な作業になると思います。

【中津委員】 今、隣の金沢区では、区役所が中心になって、住民の人たちやってるし、葉山では今、若い人たち、工務店の人たちが集まって山やりましょうみたいな話が始まっているし。私、個人的には岩手県のほうでちょっとそれをお手伝いしていることがあるので、全然この辺は野生動物の状況がいいので、住民が集まれば結構できるし、指導できる方がいればできるかなと思います。

【石井委員】 その辺、アドバイスしてください。

【中津委員】 そういうのは、だから地域ごとに持っている状況が違うので、池子だったら横

浜市役所との関係があるとか、それで沼間の辺だったら個人の方々、葉山なんかと連携しながらできる可能性があるんで、そういう意味で地域ごとの特性を生かすのがすごく返子でおもしろいところですよ。

【矢島委員】 お金のお話をしちゃうとあれなんですけど、ボランティアってすごくいいと思うんですよ、すごく。精神的というか、気持ち的にね。でも、やっぱり長い目で、それを代々代々、次の代、次の代ってつなげていくには、やはり何かそこに、やった喜び、報酬みたいな、それも莫大なものではなく、微々たるものでもいいので、それをさっき言ったように、お孫さんに何かしてあげるとか、そういうような形をできれば、すごくいいのかなという、それが一人歩き、ちゃんと活動がね、最初立ち上げるのは大変でしょうけど、それが団体となって、それが一人歩きしていってくれたら、本当にいいのかなという気はしているんですよ。

【中津委員】 それも本当に今、まちづくりの業界では、日本国中みんな同じことを言っていて、伝承するということは、やはりお金を動かさないところで、やはりフェアなお金なので、ちゃんとお金を動かすようなことを考えた上で、助成金を使いすぎないで、ちゃんとドライブできるようなことを模索するというのを、今、まちづくりやっている人たちの間では常識になりつつあるので、そういうのを、葉山の方々もそれ分かっていらっしゃるので、そういうのを積極的にやりながら、ちゃんとビジネスとして展開していくことと、高齢者の生きがいとして日々のリズムになっていくということも重要だし、それが子供たちの地域プライドになって、自分たちのまち、すごいんだというふうに子供たちが心の底から思うような、そういう教育をだから地域ごとにやっていくというのは重要ですよ。

【石井委員】 ボランティアでは不備がありますよ。それはやはり経済性で、ある程度、事業性をもってやっていかないと、持続しないですよ。

【中津委員】 いい活動がどんどんどんどん消えていくのを見てきているので、その辺は分からないですね。

【石井委員】 今までの環境審議会の中で、こういう議論してきたんですか。

【中津委員】 やってなかったですよ。

【石井委員】 私は初めてなんです。

【中津委員】 メンバー全員かわっていますし、いろいろと言っていくこともあるかなと思いますけど。

【佐野会長】 いろいろ出過ぎてまとまらない。いい意見もあるし、悪い意見もあるので、あまりマイナーな意見になると、どうして入れないんだという、もめたりもあったので、なかなか難しいですけれども。皆さん同じ意識を持っていると、割と意見として市のほうでも分かりやすいかと思えますけど。

【中津委員】 活字化する中で、ふるいにかけますので、そうすると残ったものというのは活字のものが次の世代にバトンタッチしていく。落ちたところで何か、もう一度見直すべきことというのはあるかもしれない。議事録とか、いろいろ見ればいいのかもかもしれない。

【石井委員】 反訳版の細かいやつはね、いろんなことを考えて反訳版にするんでしょうけど、何がポイントかというのも、そこはやっぱりピックアップして残しておきたいですね。反訳版だけ見たって、それは読む人いませんよ。

【佐野会長】 逆に事務局のほうで、ここはできそうだという

【青柳次長】 一つよろしいですか。今の緑地の管理の話なのですが、市で持っている緑地、確かに市内に結構ありまして、そこに関しましては、きっかけはちょっと環境の部分でも崖崩れが先なんですけど、まずは安全点検をしようというところで、市の持っている緑地で特に危険性が高そうなところをピックアップして、どれくらい手を入れるべきかというところを見ていく中で、適切な伐採になるとか、一部伐採だけではなくて、ある程度、モルタルで固めてみたいところも必要だったりとかいうところもあるので、かなりお金のなところもかかりますし、チェック自体時間がかかるんですが、そこは意識を持ってやり始めているというところではありますので、そこは結果的には生きてくるとは思います。ただ、民地に関しましては、やはりなかなか難しいものがあるので、そういう今、矢島委員のほうからあったような仕組みみたいなものをつくっていければ、それが継承していければいいとは思いますが、なかなかそこまで現状では手が回っていないというところではありますね。

1つ、ちょっと個人的な感想ではあるのですが、逗子市の場合は木を切ることが悪だというようなイメージがちょっとあって、それは良好な都市環境をつくる条例というのが平成4年から運用されておりまして、要は300平米以上の木の伐採については、全て条例の手続が必要だということになっております。とにかく…それは市民の方が意識が高いというのももちろんあるんですが、木を切ると通報が来るとというのが常なので、なかなか適切な管理なのか、開伐して開発をしようとしているのか、ちょっとその辺が判断がつかかねるものは大体全て入ってく

るみたいな状況が一時期ありましたので、ただ、今現状となつては、やはり適切な管理が必要だということは、徐々に認識が広まっているようにも思えますので、そこは脱炭素の取組と絡めてですね、さらに広めていきたいなどは思っております。以上です。

【佐野会長】 個々人の考えも違いますのでということですね。

【青柳次長】 そうですね。チェーンソーの音がするだけで、音がしていると通報がありますから、それだけで通報されても、ちょっと全然どこでやっているか分からないんですけど、実際そういうのもありましたので。

【石井委員】 市民の、行政のスタッフだけではね、正直言って管理しきれないところがあるのかなという気はしています。そういう意味では、民間と連携をして、なおかつ森を守ることがどういうことだというコンセンサスみたいなものをベースにね、それをやっていかないと、とてもやっていける状況では、言葉は悪いですけども、行政のスタッフだけでは無理かなという感じがしておりますので、そのところは市民グループとうまく連携していかないといけないのかな。非常にタッチな問題があつて、市の持っている山の脇で住民がね、市のほうがあまりコントロールする余裕がないので、自分で勝手に開発しちゃうという例だつてあるわけですね。そうすると、ちょっと道がずれちゃいますけど、その適正な維持管理ないしサステイナブルな森ということを含めて、いろいろ考えるというのは、いろんな問題がありそうだなという気がいたします。

【中津委員】 あくまでも主人公は地域の住民、動くのも地域の住民。市役所が前に行くことなくやるというのも、今、当たり前時代になっているので、それをどういうふうにこういう会議とかがサポートしていくか。地域同士の情報交換をしていくか。どこでも本当に木を切ると聞いた瞬間に問題になるのは、私も日常的にそういう現場にいますので、それを更新していかないと土砂崩れにつながるというのを説明しても、なかなか分かってくれない方々がいっぱいいて、そういう方に限って声が大きくて、いろんなことが起きるといのは、本当に日常的に、本当に常日頃接しているんで、やはり住民同士の連携をどうつくっていくかというのも重要なので、そういうことを中心に今までやってきたわけですから、そういうものをこれからそういう住民との連携も強化するみたいなことというのは、ちょっとここで宣言してもらってもいいような気がします。

【佐野会長】 どうですかね、今のお話だと、過去の掘り出し、議事録を見て、事務局で何か

よさそうなものを挙げてもらって。あと、これに書けばいいんですかね、何か。今日休んでいる方とか。

【鬼木主事】 別添3については、もちろん本日参加できなかった方についても御提出いただいているのもありますし、審議会が終わった後に皆様の御意見を聞いて、さらにこういうことがあったとか、もしそういったことがありましたら、ぜひメールやファクスで御提出いただければと思いますので、本日委員会のほうで御意見言っていただいても結構ですし、持ち帰って考えて出していただいても、どちらでも大丈夫です。

【佐野会長】 私の意見なんですけどね、リサイクルをやっているんですけども、服は大体8割、9割燃えるごみに出されちゃっているんですよ。古くなってくると。最近メルカリとかヤフオクとかいうので出すと、私も中古ばかり買っているんですけども、そうするとちょっと汚れていてもいいかなと、ワイシャツ買ったり、燃やされずに済むし、それを中古を買うと新しいものを作らなくてもよくなるので、あまりもうからなくなるんですけど。市として何か、古くなったごみは燃えるごみに入れて出してくださいねと、何か譲ってあげましょうとか、リサイクルショップに出しましょうとか、というのは何か簡単にもできるかなとは思ったんですね。ですから、銭湯へ行きましょうと同じパターンなんですけどね。何かそういうのも入れてあげたり。スズキヤさんのほうで、そういう服を取り扱うとか、私、横浜に住んでいてあれなんですけど。

【土谷委員】 服は特に扱ってはいないんですけども、食品が主に。

【佐野会長】 よくユニクロで集めていたりもするので、今、古着をね。割と、服の9割はコットンで、綿でできているので、あれは植物でできているので、カーボンニュートラルの効果に、あれを燃やしちゃうと非常にもったいないというか、環境に悪いので、できたら二酸化炭素を吸ってGパンができていますので、それはそのまま置いておくのがいいかなと、専門家では思っているんですけど。

【佐藤委員】 資源ごみで衣類は出していますけどね。あれは、私はどこかに行って、使えるものはどこかに寄付するなり、あとウェスか何かになるんだと思っておりましたけど、その先の話は分かりません。燃やされているのかもしれませんが。

【佐野会長】 あれを選別するところがあるんですよ。例えば横浜のナカノさんというところがありますが、やはり、かなり使えないものが多い。

【石井部長】 古布、お洋服とかのリサイクル、私も環境都市部長の前に資源循環課長をしておりまして、本当に家庭ごみ処理有料化のときに集団資源回収という制度の御説明を、池子もそうですし、いろんな地域に回って御説明してきたところと、あと、ナカノさんですとか、資源回収事業者さんとコミュニケーションして、資源化の工場も回収業者さんに実際見に行かせてもらって、中では逗子市のお洋服とかですと、おおむね海外に輸出されるケースが多いようです。佐藤委員がおっしゃるように、それに向かないものはウェスになったりするということで、資源回収事業者さんからのお話で、ちょっとおもしろいなと思ったのは、逗子市から回収される古着というか、古布類ですね、は非常に程度がいいというかですね、高く買い取ってもらえるということらしいので、そういう意味では大切に着て、またどなたかに着てもらえるというところで、皆さん、しっかりそこを分けて分別していただいているというところだと思います。

【石井委員】 スズキヤさんの例ですとね、私も付け焼き刃ですけど、どうもゼロカーボンの中には無駄な食糧を極力減らすというのがあるようなので、その辺はスズキヤさんのところと関係してくるところがあるような気がしているし、現に残った野菜とかいろいろね、スズキヤさんのほうで寄附していただいて、市民のほうでそれを受け取って、例えば野菜をつくる堆肥にしたいと、やっているところはあるようですね。そういう部分はね。

【土谷委員】 スズキヤの今の取組の中で。

【石井委員】 何かスズキヤさんの分野でも、かなり関係するところは多そうだなと。もうやっぺらっぺらとところも多いでしょうけど。

【土谷委員】 一つ、最近メディアのほうでも取り上げられているのは、キャベツの外葉を集めて、小坪の港でそれをウニに餌として与えて、それを養殖すると。ウニが今、磯焼けで増えちゃっているというところで、ウニ退治というんですかね、ウニを海から拾ってきて、それをキャベツの餌として与えて、それで猟師さんが出荷して、うちで販売するというような取組は一つやっている。それは本当にキャベツだけの話なんですけども、食糧のロスが減らすということとで言うとですね、環境というところも一つなんですけど、ロス、お金のロスをなくすという観点からも動いていて、直接環境というところからだけではないんですけれども、非常に多くのロス削減ということでやっております。商売の話になってしまうんですけれども、捨てるよりはお客様に買ってもらおうと、従業員に食べて味を知ってもらおうとか、まず捨てない

という取組から、企業内では行っております。

【中津委員】 フードバンクとかやってないんですけど、逗子は。

【土谷委員】 フードバンク…。

【中津委員】 横浜だとフードバンクが全部受け取って、それを子ども食堂をやっている、私もやっているんですけども、大学でやっているんですね。そういうところに回して。

【土谷委員】 子ども食堂のほうにはですね、一部食料品を御提供しております。

【中津委員】 それも環境活動。格差カット社会の話で。

【石井委員】 各地域でフードバンクとの接点は随分あるようですよ。

【中津委員】 逗子である。ちょっと知らなくて。横浜でしかやってないので。

【土谷委員】 杉田などではですね、月に1回か2回、少し、5,000円程度ですかね、提供しているような形をとっているんですね。

【佐野会長】 先ほど佐藤委員がおっしゃられたとおり、国のものは分かりにくいので、今の話をちょっと総括すると、衣食住と、さっきもどこかで出てきたかなと思うんですけど、それと並びで分かるように、あるいは私が今、古着を捨てないように、燃やさないように、食堂のところはね、今おっしゃっていた土谷委員のところでは何かそういったところ、文章の中にそういう、こうしなさいという指針を出したり、事務のほうはちょっと僕も分からないんですけど、例えばお風呂の水を洗濯に使いましょうぐらいでもいいかなというのは、そういうのを何か分かりやすい、子供たちにも、あとお年寄りというかね、私もおふくろに言っても、なかなか理解できないので、分かりやすい文章を取組案に入れてもらえるといいかなと。キーワードですね、衣食住という。その辺ちょっと作文してもらえると助かるかなと思うのです。

【鬼木主事】 今、佐野会長のほうでおっしゃられた、衣と食と住に対して、こういった取組をすることによって削減されていきますよとか、そうした分かりやすい行動の指針というんですかね、個人個人のそういった行動の指針まで示せると、よりよいのではないかというところの検討していくというのでよろしかったですか。それもちょうと踏まえて、取組案のほうは考えたいと思います。

【石井委員】 繰り返しになりますけれども、さっきの冒頭の各自治体の成功例を見ても、ほとんど逗子やっているなという感じなのですよ。だから、そういう意味では、かなり進んでいる市、皆さん御存じだと思いますが、ところがあるような気がするので、ただ、ノーカーボ

ンという、いきなり降ってきたような印象もありますけれども、その中にうまくのってない
という語弊がありますけれども、せっかく先行してやっているので、そのすり合わせみた
いなものは、あまり時間がないですけれども、うまくアピールできる場所があるといいなど、
そういうふうに思いますね。多分、こういう社会的な事案になってくると、政府のほうもいろ
いろな助成金を出す項目は増えるでしょうし、その辺の力をうまく出すというようなことも考
えると、うまくやってもらいたい。人頼みって、申し訳ないんですけど。その辺は強く感じま
す。

最近、企業のほうも、そういう社会貢献であるとかね、そういう部分というのを企業にも要
求されていて、投資の対象にするのに、そういうことをやっているかやってないかが、例えば
お金を出すときの一つの判断材料になったりすると聞いておりますので、世の中ちょっとずつ
変わってきているのかなと思っていますので、その辺も含めてうまくラッピングしてもらいた
い。繰り返しになりますが、今までやってきたこと、これはかなりいいことをやっているんだ
と思いますので、きちっとそこにのっけて、すり合わせをして、それで重みのあるものにして
もらいたいと思います。今まで皆さんの話を聞いていても、やはり特に逗子はライフスタイル
に関すること、これが多いうように思いますので、最初に戻りますけれども、その意識のギャ
ップ、これをみんなのコンセンサスが得られるような形で発信していくと。これが重要なのか
なと思います。

【中津委員】 ついでに言うのですね、キャッチフレーズが重要です。実はそれ、横浜が結構
うまくて、会議があるときに広告代理店が呼ばれて、パンフレットのデザインがどうだとか、
キャッチフレーズ、相当議論する。それ、すごく重要なので、それとこれもどかの書類を見ても
非の打ち所がないんですよ。間違っていることは何一つ言ってない。言い換えると、隣の市
でも同じことを言ってる。やはり、だから逗子ならではのものを考えたら、やはりライフス
タイルという話も当然そうなんですけれども、楽しいと。だから環境のことを考えると、何か
我慢しないといけない。何かやりたいけどできない。買いたいけど買っちゃ駄目。車走りたい
けど走っちゃ駄目。そうならざるを得ないのは分かっているんだけど、それをわざわざ活字に
する必要なくて、逗子はもう、それこそずっと20年ぐらい前から、SDGsなんかできる前か
らずっと議論してきたのだから、もっと上をいくというのは、実は楽しい。そういうところを
アピールするというのが逗子らしさという気がします。

【矢島委員】 今、楽しいというキーワード、僕もすごい大切だなと思うんですよ。物事を何かするのには、やはりまず楽しくなければというのがあると思うので、例えばゼロ・ウェイストというんですか、分別が徳島でしたっけ、どこかすごい、小さい村なんでしょうけど、市民の人がそこに捨てに行くみたい。ごみ捨てが楽しくなるじゃないですけど、例えば逗子にどこかそういう1か所、大きな施設をつくって、第何週の何曜日に乾電池とか、何とかって、絶対そのとき出せるかどうかというのものもあるじゃないですか。出せなかったときもあるだろうし。でも、ああ、そうだ、うちにごみたまっちゃったから、じゃあ子供と一緒に捨てに行こうみたいな、そこでちょっと車使って、ガソリン使っちゃうと、ちょっと違うのかもしれないんですけど。でも、そこへ行って、自分のものを全て、衣類だとか蛍光灯だとか、そういうのに子供たちと一緒に捨てに行く。自分の行ける時間に。そういうのだと、何ていうんだらう、またごみを捨てるって、何かちょっと、何かいまいち負のイメージがあるじゃないですか。でも、何かそういうことをすると、何か役立っているな、楽しいなという、そういう気持ちになってもらえるような、そういう取組なんかも、5万人ぐらいの市のあれだったらできるのかなというのも思っています。そうすると、一人一人の気の持ち方とか取り組み方に子供とか家族全員が変わってくるんじゃないのかなという気もしています。

【石井委員】 ごみ捨てのデポジットですけど、これは市役所の前にもあるし、アリーナの前にもあるし、市内にいくつかありますよね。そういうことを推進している市民グループ、いくつかある。そういう意味では進んでいるんだらうと思う。

【中津委員】 例えばそういうところに行ったら、何か横でコーヒー飲んでいる人たちがいて、そこで座って、じゃあ一緒にコーヒー飲んでとか、そういうちょっと何かお金ではかれない楽しさというものに変換していくのが、何か逗子らしいかなと思っています。

【矢島委員】 何か空間が欲しいのですよね。

【中津委員】 そうそう。みんなで朝、海に集まったりするじゃないですか。何かあれ、別にそこで何か本当に具体的な数字ではかれるような何かがあるわけじゃないけど、何となくちょっとした気配を共有するとか、空間を一緒にするとか、そういう個人情報、個人情報と言っている時代なのに、すれ違うときに「おはようございます」と、知らない人に言っちゃう。何かそれはやはりこういう活動とつながることになればいいかなと思っているのですね。

【矢島委員】 不用品を持って行くと、そこに捨てに行ったらいろんな人がきていて、服捨てた

ときに「あ、その服、すてきじゃない」とか言って、本当はもらっちゃいけないんでしょうけど、「もらっていい」とか、そういうのになったり、またつながりもできるだろうし、おもしろいのかななんていう気がするんですよ。

【石井委員】 市内にいくつかそういう市民団体があると思いますよ。

【佐藤委員】 そうですね、ボロの会とか、いろいろ。ただ、コロナになってちょっと少しストップしている部分もありますけど、私もそういうのを利用させていただいています。あと、アリーナの文化ホールか何かのところに、瀬戸物とかいろんなものをやっていて、ただいただいってくるというようなことで、利用させていただいて、今ちょっとそれがね、ストップ。ここもあれですけど。自分の家で電池1本切れて、置いておくのが嫌だから、私は市役所に捨てに来たりとか、ステーションがあるので、利用させていただいています。2週間に1回なものですから、捨てる日にちが。いろんなステーションがあるので、利用させていただいているので、逗子市は進んでいるなどは思いますけど。

【矢島委員】 私の認識がちょっと違ったですね。申し訳ございません。

【佐藤委員】 結構市民団体でやっている方、多いですよ。ちょっとこんな時期なので、少しそういったあれがストップされたりしているので、残念な気持ちありますけど。

【矢島委員】 ちょっと余談なのですが、東逗子にあるコーヒー屋さんがありまして、東逗子の中でもヨークがそばなので、それなりに人が通るんですよ。いらなくなったコップだとか何か、うちのおばが亡くなって、ちょっと整理したのですが、どんどんどんどん持って行って、「持って行って、あげて」と言ったら、案外持っていくんですよ。あれ、びっくりしました。外人さんなんかも、そこのお店、よく来るので、外人さんなんかも喜んで持っていく。日本人よりそういう持っていくというのはあれなんでしょうけど、日本人の人も通りすがりにぱっと止まって見て、これ、いいんですかと。どうぞ、どうぞと言うと持っていくというので、ちょっと余談ですけどね。すみません。そういうのが根づいていくといいですよ。ただ捨てちゃうんじゃないで、それを回すということですね。

【石井委員】 別添の2の逗子市の取組、ちょっと拝見させていただくと、4番の特にゼロ・ウェイストはよくやっていると思います。特に環境会議の中では、よく議論されて、別紙の積み重ねだろうと思いますね。これはよくやっていると思います。3番の自然環境の保全、緑地のところ、生態系。これはかなり大きな問題なので、これをまともにやるとなると、かなり大

変。これこそ市民団体としっかり手を握って、緑の保全も含めて、楽しみの負荷を含めて、かなり一生懸命やっていかないといけないところかなという気はしますね。

それから、5番のゼロカーボンシティ実現に向けた気候変動対策、基盤の整備というところは、もうちょっといろいろあるような気がします。今、私も具体的なものはなく申し訳ないですが。これは中津先生あたりがいろいろアイデアがあると思います。

【中津委員】 この防災ということをちょっと今、忘れがちですよ。津波、10年たって、特に私は実は鎌倉市民なので、山側に引っ越しましたが、住んでいたところだったら逃げることでできないところだったので。個人的には釜石の復興の手伝いにずっと行っていたので、特に逗子の場合、そういう地域の人と人のつながり。それがどういうふうに津波が来た後、サステナブルにコミュニティを復活させるかということとつながって、今からそれを意識しながらやるということ十分だと思います。

【石井委員】 私は、今の小学校区でね、住民自治協議会の運営をやっておりますけれども、大きな柱の一つに、福祉、世の中が悪くなっていますから、経済が進んでいるときはいいんですが、後退しているときは穴がでかくなるので、弱い人がみんなそこに落っこっちゃって、そうすると、格差の拡大だとか社会のいろんな問題が全部埋もれちゃうんですよ。その中で、どうやって地域でそれをカバーするかというのが最大のテーマになってますけれど、それ、なかなか大変ですね。私の個人的な興味は、カーボンニュートラルとか環境とかSDGsとか、それは地域の中でどう消化していくかというのが私の中でもまだ決まっていません。

【佐野会長】 こっちの別添1と別添2ですか、特にSDGsとは入ってないんですね。このキーワードでは。

【青柳次長】 SDGsに関しては、幅が広がってしまうので、あえて入れてないです。多分、そのほかのところに着目されるケース、結構出てくると思いますし、あとは役所的に言うと、SDGsは所管が企画なんですね。私どもがSDGsをやってしまうと、そこで私どもで吸収しきれないものが多分宙ぶらりんになってしまうというのがあって、ちょっと表現として出していないんです。すみません、こちらの都合ですが。

【石井委員】 それは分かります。

【中津委員】 あえて言うと、触れないほうがいいです。やはり文句になりつつある。

【佐野会長】 関連性があるんですね、どうしてもね。

【石井委員】 私の個人的な見解は、またちょっとずれちゃいますけども、いずれそういうのって、時限が限られていますから、しかもSDGsの場合には国連でも採択されていますからね、いつまでにその項目、要すれば理想的な開発が行われているかという、一つの基準ですね。になってくるので、ゼロカーボンについてはもっと切実な問題としてね、具体的につきつけられ始めていますから、そういう流れも一方で、ある程度にらみながらやっておいたほうがいいのかなと。ただ、下手にやっちゃうとね、今、中津先生の御指摘のとおり、上辺だけのものになっちゃうと意味ないんですけれども。特に今日のゼロカーボンの話というのは、せっかく逗子市がここまで、今までやってきているんだから、そんなのやっているじゃない、やってるじゃん、既にというのがいっぱいありますから、それと政府あたりが言ってることと、むしろ先進事例でやっていることがいっぱいあると思うので、そこどうまくすり合わせて、我々の一般住民のギャップというのは、じゃあどこに我々の生活の中にどうかいてもいいのかなというのが、うまくつないでいく。そこをコンセンサスをどうつくるかという話なのかなと思っています。

【佐野会長】 一つ事務局に質問したくて。別添2のところ。二酸化炭素の削減というかね、ゼロミッションがやはり大気と土と水がかかっていると思うんですね。大気と土と水を守ることが結果的には二酸化炭素の排出を下げる。これ、拝見すると、4番のところ、焼却にもごみ処分場への運搬にも多くのエネルギーが使われて、二酸化炭素が出ることが書かれていて、土を汚さないほうがいいということがね、間接的に書いてあるので、ああ、これ、いいなと思って、大気を汚さないということは環境にいい。やはり当然燃やさないということは二酸化炭素を減らす。けれど、水がないなと、専門家として、せっかく何か海もあるし、ごみ拾いしているのかなと。さっき言ったとおり、水を浄化するのにエネルギーもかかるので、上水道をつくるのに。そういった意味でも、例えばお風呂の水を洗濯に使うというのも、結局は二酸化炭素削減になるので、何かちょっともったいないなと。キーワードとして、さっき言ったとおり、衣食住を考えて大気・土・水を守ることが脱炭素社会になるということで文章を書いてくれるといいかなと思ったのですけれども。どうでしょうかね。

【鬼木主事】 今回お示しした資料なのですからけれども、事務局のほうで考え得るものを、職員の中で考え得るものをピックアップしたような形になるので、ここからさらに、会長がおっしゃるように、こういったものもあるんじゃないかというのも今後出てくると思いますので、そう

いったものも踏まえて、内容についてはいま一度精査していきたいと思っておりますので、水を守っていくというところの観点も、ちょっとごめんなさい、勉強不足のところ、その辺は考えられなかったというところもあるんですけども。その辺はちょっと調べた上で、いろいろ御意見もお伺いした上で。

【佐野会長】 委員の方も、私も逗子に住んでないので、水を守ることをやっているのかなと、ちょっとよく理解してないんですけど。ごみ拾いしているのかなとか。

【鬼木主事】 今、そうですね、海岸のクリーン活動だったりとか、清掃だったりとかもありますし、水についてもやはり田越川があって、逗子海岸というの、やはり逗子の一つの顔と申しますか、そういったところもあるので、水に関しても研究していきたいなとは思いますが、どういった観点で盛り込めるかなというのも含めて、ちょっといま一度考えさせていただきます。

【石井委員】 私も、イメージが湧かないのですが、水という観点、逗子市というスケールに書き直して、どういうイメージを持っているのでしょうか。ゼロカーボンという観点で。

【佐野会長】 水を汚さずに何か努力しているというところ、1つでも要素として。

【石井委員】 水を汚さないように。海とか川とかのですか。

【佐野会長】 あと、水の節約ですね。水道の。雨水を利用しているとか。

【中津委員】 下水道の処理施設に多くの汚水を流し込まないような努力というのが一番電力的には関係していますよね。

【佐野会長】 水を大切にするという、環境を大切にすることは、結果的には脱炭素なんです。

【石井委員】 水というと、下水道、上水道、それと河川のみですよ。

【矢島委員】 河川だと、この前、山北でしたっけ、足柄でしたっけ、ちょっと忘れちゃったけど、そんな大きい川ではないんですけど、発電を、ネジで切ったような、プロペラ型ではなくて、それで発電をして、そこの街路灯というんですか、それをそれで賄うみたいな。例えば田越川のどこかでそういうのを設置して、商店街の街路灯をそれで賄うとか、そういうことができればまたおもしろいかなとは思いますが。ちょっと話がね、あれなんです。どこまでそういうことができるか分かりませんが、そういう使い方もあるのかなという、その番組を見てですね、思いましたけど。普通の二級河川で発電かなんて思いますけど、今何かい

ろいろ考えているみたいで。

【中津委員】 いっぱい製品が出ている。

【矢島委員】 そうですね、何かつくったみたいですね。

【中津委員】 小水力発電機というのがいっぱい出っていて、20万円ぐらいで結構それなりの電力が出る。

【矢島委員】 みたいですね。

【中津委員】 結構まちづくり団体が買って、自分たちで使っているという事例は増えています。

【矢島委員】 ちょっと忘れたんですけども、ほんときれいな川が流れていて、そこにぼんと置くだけで、この街路灯がつかますみたいな、やってみましたので。

【佐野会長】 かなりの電力調達できるのですか。

【中津委員】 いや、かなりじゃないと思いますね。

【佐野会長】 ちょこっとですよ、多分。

【中津委員】 あまり生活に関わるような電力をとっている事例は知らないですけど、そういう公園の電力だったりとか、イベントのときだったりとか、ちゃんとそれも常設されているところもありますし、それに助成金を出している自治体もあります。

【佐野会長】 逗子市さんも何か出前授業みたいのがあれば、シャワーを節約しましょうよでも、何回かやればね、いいかなど。うちの大学は節水トイレといって、水が少ないトイレに切り換えて、そういうのが何かホームページで呼びかけるとかですね、入れたみたいで。そういうので呼びかけるだけでもやっているということになるので、私は水のキーワード1個ぐらい入れていただいて。

【中津委員】 住民がそれを知っているということが非常に重要なことなので、特に汚泥処理で使う電気料というのは、ちょっと桁が違うので、それを減らすということを市民全体で考えているという

【石井委員】 逗子の上下水道、料金上がるんですよ。一部しか私はつかまえていませんけれども、1つは施設が老朽化しているので、それを建て直すとかかなりの金、金の話になります。資金が必要だろうと。それから今、下水処理の、これは合流式、分流式、何ていうのかな。まずそれを整備しなければいけない。先生のお話を聞いて、ちょっと思ったんだけど。

【石井部長】 副会長おっしゃるとおり、下水道については今、かなり逗子市は県内、全国的にもかなり早い時期から下水道の整備を始めて、早い時期にこの市内、ほぼ100%の面的整備を達成したということで、平成14年度ぐらいでもう概成ということで整備達成して、取組が早かったのも、かなり老朽化してきて、浄水管理センター、下水処理場ですね、そういったものも建て替えの準備をしなければいけないということでは、かなり経費がかさんでくるということと、あと初期のころに整備してきた下水管は合流式・分流式とありまして、初期のころのは合流式ということで、下水の汚水と雨水が両方管に入っちゃうということでは、雨水が入ることと、かなり処理場に負荷がかかるわけです。それを分流化する合流改善工事というのを進めていて、それは中津委員さんおっしゃるとおり、分流にすることで処理場への負荷が減るということでは、恐らく脱炭素につながるということでは、そういったところの多分PRをですね、しっかりしていかなければならないのだろうと思います。そのところ、市民の皆さんにはしっかり御理解いただく。使用料についても、県内でかなりの長いこと逗子市は改定してなかったもので、相当低い水準にあるので、これは施設に絡んでくる、今後の経費のことも考えて、適正な値上げ、改善をしようとしていると。今その準備をしているというところでございます。

【石井委員】 話が飛んじやって恐縮ですけれども、あと重要な点はね、子供たちへの環境教育。これも逗子、かなりやっているんじゃないかと思うんですね。だから、多分そういうのはアドバイスをやっていると思うんですけれども。

【中津委員】 きょうちょっと傍聴の方いらっしゃらないんですけど、いつもだったらいらっしゃる。やっていたらいらっしゃる方たちが。

【石井委員】 ちょっと簡単にお話しいただけますか。環境教育。

【中津委員】 いや、それは私じゃなくて、環境会議の方々がそれぞれ小学校に行って環境教育のことでやっていたらいらっしゃいますので。総合の学習の時間に。

【鬼木主事】 冒頭のほうでも石井委員から、ずしし環境会議の団体のお名前が出たかなと思うんですけれども、逗子市の市民団体の一つとして、ずしし環境会議という団体の方がいらっしゃるんですが、その団体のほうで小・中学校に対してですね、温室効果ガスのCO₂の関係だったり地球温暖化の関係だったりの出前授業を行ったりですとか、あとは自然環境に関しての、例えば観察会を開いたりとかというところも実施しておりますので、そういったところをもっと市民の方に知っていただけるような機会というのが、コロナになってしまったというの

もありますけれども、そういったところも大事なのかなというのは、個人的なお話になってしまっただけなんですけれども、そういうことはお話を聞いていて思いました。

【石井委員】 ゼロカーボンのね、要素も含めて、そこでちょっとスパイスを加えてですね、やったらいいかなと思いますね。

【矢島委員】 先ほどの宣言のところですね、今、環境教育の話が出たときに私も思ったんですけれども、宣言なので、一つ一つの施策を盛り込むこともできないでしょうし、かといって、ありきたりなことも言えないというところでは、やはりさっき出ました逗子らしさですとかが盛り込まれたり、キャッチフレーズが必要ということをおっしゃっていたんだと思うんですけれども、やっぱり環境教育というのが私も大事かなと思っておりまして、教育という、もう教えるということになりますけれども、一緒に体験して、楽しみながら大人も学んでいくという、このサイクルが非常に重要かなと思っております、その部分ではこの宣言の中にそういったというんですかね、そういう雰囲気というのが盛り込まれてもいいのかなと思います。別添2のほうでは、環境教育の実施というのはありましたけれども、やはり今、通常私が住まいが鎌倉市ですけれども、出身は横須賀なんですけれども、逗子の中で仕事をしている上ではですね、非常にお子さんと大人たちが近い距離で楽しんで暮らしているというのがイメージでありますので、そんな雰囲気が盛り込まれれば、やはり逗子らしさというのが出るんじゃないかなというふうに、イメージの話で申し訳ないんですけれども、思います。

【石井委員】 逗子で田越川の一斉清掃をやっているんですよ。上流から下流まで。それで、よく小学生とか、小学生の就学前のお子さんも掃除に来ましてね、あれって多分、川に降りることはあまりないと思うんですが。降りて、魚とか鳥とか、いろいろ見ることが、多分いい原体験になるだろうと思っております、既にやっていますからね、10年以上。ごみも随分減りましたし、半分以下になっていますからね。田越川、随分きれいになりました。だから、そういうことでも、かなり実績はあるのかなという気はします。

【佐野会長】 とにかく今ね、環境教育が重要だと思います。

【土谷委員】 田越川に関しては、私も参加させていただいて。

【石井委員】 スズキヤさんもね、100人ぐらい出て。

【土谷委員】 何年か参加させていただきましたけど、本当に楽しみながら。大人も体験できか実感できないというか、机上の空論じゃないんですけれども、実感しながらでない次の行

動に結びつかないのかなというところが非常に私自身、感じたところです。

【中津委員】 あれと同じような動きが、山側でもできればいいですね。

【土谷委員】 そうですね。

【中津委員】 こういう、やっている人たちがいるというのを見て、興味を持つ人が増えるということですね。それが子供たちはすごく理科を勉強することとか社会を勉強することにつながってきて、それが楽しいことになって、より勉強したくなる。それはすごく重要ですよね。

【佐野会長】 そろそろ時間が迫ってきています。半までで。どうしても何か意見があるというのがあれば、言っていただいて、まとめなければいけません。

【石井委員】 今後のスケジュール、先ほどの御説明では、今期中に宣言文を書き上げると。審議会のプロセスというのは、今日がそういう意味では最後のということで、それ以降はもうないですね。

【青柳次長】 基本的には今日で御意見をいただいて、そのエッセンスを入れて、宣言としてある程度固めていこうと思ったんですが、結構宣言の表現の根本の部分の御指摘というか、御意見が出ているので、もう一回ちょっと組み直してやってみようとは思っています。今、皆様方からいただいた御指摘をうまくエッセンス入れられれば、それで環境審議会の御意見をいただいたものとして、その先のステップへ行こうと思うんですが、ちょっとやってみたいと思いますので。ただ、基本的には今日で意見としてはいただいてまとめるということで考えておりましたので、この後は基本的には庁内の体制づくりといいますか、キックオフのような感じで、庁内体制をまずつくっていかないといけないので、宣言をする前段の段階でその体制をつくってというところに入っていこうと思っておりますので、ちょっと作業的に一回やってみて、またこちらでまとめた案をですね、お示しして、このような形でよろしいかどうかというか、御意見いただいたものがうまくまとまっているかどうかを見ていただいて、それで先に進めればというふうに考えております。

【中津委員】 これ、別添3、11月に17までだったのを私たちもとりあえず今日話をして、一度家で冷静にちょっと書いて出すという感じでいいんですかね。できればこのメンバーでもこういうのをシェアできたほうがいいかもしれないですね。アドレスとか、どうなっているか、ちょっと分からないので。

【佐野会長】 一応書いてもらったほうが分かりいいですね。

【石井委員】 あとね、この参考の環境省の地域脱炭素ロードマップ、これね、非常に分かりにくい。個人的に期待したのは、簡単なレクチャーしてもらいたかった。

【佐野会長】 もしよろしければ、事務局も大変だろうし、私もちょっと参加して、事務局と私に一任して、ちょっと作文してお見せして、了解を後で得られればなと思うんですけれども。

【青柳次長】 どのような形になるか、分かりませんが。

【佐野会長】 議題2ですかね。議題3のその他について、ありますかね。

【鬼木主事】 事務局からは特にありません。

【佐野会長】 特に皆さんのほうから何かなければ、これで終了したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

【鬼木主事】 先ほども御説明させていただいたので、意見書については17日（水曜日）とさせていただきますので、持ち帰っていただいて、もし今日の御意見も踏まえてだったり、御発言できなかったことだったりとか、先ほどのところ、また御記入いただいて提出いただいても構いません。もし御意見がなければ御連絡は不要ですので、よろしく願いいたします。以上です。

【佐野会長】 では、以上でこれで今日は終えたいと思います。今日は本当にどうもありがとうございました。今後ともよろしく願いします。